

行 会 ってこーわい ってこーわい

「渡部 稜也 さん」

第14回りんり俳句大賞で
文部科学大臣賞を受賞

No. 93



「自転車の籠に夕焼載せてをり」

この句を詠んだのは、松山中央高等学校3年生の渡部稜也さん＝徳丸＝です。「橋を渡っているときの句を詠みたい」と思い、推敲して完成したこの句。全国から約2万7,000句が応募された第14回りんり俳句大賞で、最も優秀だった句に贈られる文部科学大臣賞を受賞しました。

たった17文字で、情景を鮮やかに描く渡部さんですが、最初からうまくいっていた訳ではありません。「最初は難しかったです。句も選ばれないし、手直しをされることも多くて」と当時を振り返ります。「俳句甲子園のテレビを見て憧れて」始めた俳句に、悩み苦しんだ渡部さん。その中で、「がむしゃらに句を作り続けたこと」が、今回の受賞につながりました。

現在、文芸部の部長を任されている渡部さんは、「家でも多くの句を詠んで選句眼を養って、それを批評や討論の場で生かして、全員で高め合っていきたい」と話し、同級生や後輩を引っ張っています。最終学年となる今年の1番の目標は、夏に開催される「俳句甲子園」です。「全国で優勝したいし、個人としても最優秀句に選ばれたい」と力強く話す渡部さん。昨年、地方大会で敗戦してしまった雪辱を誓います。

17文字に、熱意を込めて。渡部さんの挑戦は続いていきます。

▼編集後記

ついに、ホッケー場のこけら落としです。今月号の広報でも写真を載せていますが、青い空に青いピッチ。そこで、どんな戦いが見られるのか、わくわくしますね。取材で練習をしている姿を見たことがあります。パチパチとスティック音を響かせ、スピードのある攻防が繰り広げられる様子は、見る人を魅了します。ぜひ皆さんも、会場で体感してみてください。(久保)

一つ諦めてしまうと、だんだん諦めることに慣れて、いろいろな場面で「○○だからもういいや」の言い訳が出てきてしまいます。私も以前ランニングをしていましたが、今では理由をつけて走らなくなる始末。

ですが、義農祭で見た中高生たちは、悪天候の中でも誰一人「雨だからもういいや」と諦めることなく最後までやりぬき、行燈を完成させました。そんな姿を見てまた頑張ってみようかなと思った1日でした。(蔭谷)

Proud! Japan

広報まさきに有料広告を載せませんか？

広報まさきに掲載する有料広告を募集しています。希望者は、町ホームページをご覧になるかお問い合わせください。

❖広告掲載枠

広報まさきの裏表紙
(下欄3枠、1枠の大きさ＝縦40ミリ×横60ミリ、フルカラー)

❖配布状況

毎月1日発行。発行部数1万1500部。町内全世帯へ配布

❖広告掲載料

1枠、1月当たり2万円

☎総務課広報情報係 ☎985-4132